

2章 「理解する」

子どもの言動を見取り、「理解する」ことは、「科学する心」を育てる基盤です。保育の場面を切り取り、子どもの言動や遊びの状況を記録し、体験や育ちを考察して事例にまとめるだけではなく、静止画や動画なども活用して、保育者同士で情報を共有し、子ども理解に努めている園が増えていきます。そこで、2章では、子どもたちの体験が深まり、広がっていく過程から、「科学する心」が育まれる姿を捉えている8つの事例を紹介します。

一人の子どもに注目し、興味の対象への関わり方の変化から理解する 〈わかば保育園〉

ゴーヤに興味をもった子どもが、日々観察することで、ゴーヤのさまざまな不思議と出会い、好奇心を膨らませ、さらに興味を深めていく姿を捉えた事例 (P.11)



同じ生き物に関わる姿に注目し、関わり方の深まりから理解する 〈あおい第一幼稚園〉

飼育中のウサギの死を経験し、その後、興味と愛着をさらに深め、ウサギの命を守るために、自分たちの関わり方を考え、工夫することに繋がった事例 (P.18)



不思議から探究へと展開する過程から理解する 〈よいこのもり認定こども園〉

味噌汁を作りたいと考えた子どもたち。だしと出会い、味わう・よく観る・触る・匂いをかぐなどの直接体験を通して、好奇心・探究心を膨らませていく姿を捉えた事例 (P.12)



生き物への興味から他の遊びへと広がる姿から理解する 〈鳩の森保育園〉

森でクモを発見した子どもの興味が友達へと広がり、体の作りや巣作りを知りたいと興味を深め、さらに表現へと繋がっていった事例 (P.20)



小さな生き物と出会い、興味が探究へと深まる過程から理解する 〈美郷保育園〉

ミミズと出会い、興味をもった子どもたちの小さな生き物への興味が、仲間との関わりを通して、生き物の生態を知ることや表現へと繋がった事例 (P.14)



同じ遊びの展開に注目し、遊びが深まる過程から理解する 〈愛泉幼稚園〉

転がし遊びの経験がなかった4歳児が、転がし遊びに興味をもち、『こうしたらどうなるかな?』『もっと面白くしたい』と、繰り返し取り組む過程を追った事例 (P.22)



園庭の自然環境への興味が深まる姿から理解する 〈千代川保育園〉

園庭の虫や花に興味をもった子どもたちが、友達と情報を伝え合い、共有しながら興味を深め、さらに描いたり作ったりして表現する活動へと展開した事例 (P.16)



小さな種を育てることで興味が広がる姿から理解する 〈赤湯幼稚園〉

4歳児の時にスイカを種から育て、収穫の喜びを味わった子どもたちが、再びチャレンジし、他の種へと興味を広げたり深めたりしていく事例 (P.24)



遊びに夢中になり、何度も何日も目的に向かって繰り返したり、問題を解決したりする子どもたちの姿から、「科学する心」の育ちに繋がる体験を読み取ることができます。「子ども主体」だからこそ、問題や困難が生じ、時には大人も子どもと一緒に考え合ったり知恵を出し合ったりすることもあります。そうした状況でも諦めない子どもたちを理解し、とことん寄り添い支える保育者の援助と環境の工夫が、これらの事例から見えてきます。